

第 2 学年 美術科学習指導案

1 題材名 写真「〇〇(中学校区名)発見フォトアート」

*学校名を特定できないようにするため、単元名を〇〇とした。

2 題材の目標

- 日常的な風景を新たな視点で見つめ直し、カメラで撮影するという表現手段を用いることで、日常的な風景が美術の表現対象として存在することに気付いたり、新しい表現手段の可能性に気付いたりする。
- 日常的に見慣れた身の回りのものや光景を、「〇〇発見」という新たな視点で見つめ直し、被写体を選び、作品にした時の造形的効果を予想して工夫をしながら、カメラで撮影して作品を作ることができる。
- 新たな視点で撮影した互いの写真を基に、撮影の視点に焦点化した交流活動を行うことを通して、作者の表現の意図や着眼点、表現の独自性を感じ取り、互いの作品のよさや写真表現のよさを味わうことができる。

3 題材設定の理由

(1) 生徒の姿から

生徒を見ていると、自発的に身の回りの事象を見たり考えたりしながら何かを感じ取り、新たなアイデアを発想したり、ものを生みだしたりする力が弱いと実感している。今日の子どもたちは「創造性に乏しい」とも言われている。そんな姿から、生徒自らがテーマを生み出し、課題に向かって追求していく活動を大切にしたいと考えている。

(2) 写真表現の特性から

本題材で扱う写真表現は、カメラのシャッターを押すだけで、誰もが簡単に写真を写し作品をつくらることができるという特性がある。絵画作品に比べれば、はるかに短時間で作品をつくることも可能である。そのような特性を生かし制作をさせるためのポイントとなるのは、まず基礎的な写真技術を指導することが必須である。さらに、作者がどのような意図で、どんな作品にしたいのか、という制作の意図や、作品を作り上げる途中経過での思い付きや発想といった制作プロセスが重要だということである。そこで、一人一人の感性や意図を大切に写真で表させようと考えた。

さらに、表した写真を媒体として他者と交流する場を設定しようと考えた。短時間ではあるが、作者の意図やテーマを探りながら写真を眺めたり、自分とは異なる友達の感性に触れて新たなよさを発見したりするという活動を組織していこうと考えている。

4 題材と研究主題とのかかわり

本校の研究主題は「認め合い、助け合い、共に高め合う生徒の育成」であり、お互いのよさを認め合う、相手の気持ちを考えて助け合って活動する、共に高め合う態度を育てることを重点としている。テーマの設定や作品づくりの場面で、また、相互の作品鑑賞を通して、他の生徒への理解を深めることができると考えている。

また、本年度の市中教研美術科の主題は「豊かな感性を養い、主体的に創造活動を楽しむ生徒の育

成」である。日常的に見慣れたものや光景などを意図的に表現させたい。誇れる〇〇（中学校区）、みんなで作ってきた〇〇（中学校名）などのテーマでファインダーを通して新たな見え方を探し、写真表現を追求させたい。また、友達の写真作品に関心をもって接し、作者の意図や着眼点、表現方法の独自性などを感じ、そのよさを味わうことで写真表現の楽しさを実感してくれるものと期待している。

5 指導の構想

(1) 新学習指導要領の「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」を踏まえて～

「中学校学習指導要領解説 美術編」（平成 20 年 9 月 文部科学省）第 2 章「美術科の目標及び内容」の第 1 節に次の記述がある。

「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」について

美術の創造活動は、生徒一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、それを造形的に具体化する表現活動と、表現されたものなどを自分の目で直接とらえ、よさや美しさ、作者の心情や考えなど感じ取り味わう鑑賞活動とがある。

今回の改訂では、生徒一人一人の資質や能力の向上と、自己実現を図ることを一層重視した。そして、表現においては、育成する資質や能力の視点から内容を整理し、発想や構想に関する項目と、創造的な技能に関する項目とに分け、両者を組み合わせて題材を設定するようにした。（中略）

鑑賞においては、自分の感じ方を大切にしながら主体的に造形的なよさや美しさなどを感じ取ることを基本とし、（中略）同時に、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きなどを実感させるような指導が大切であり、美術作品だけではなく自然や身の回りの環境、事物も含め、幅広く対象をとらえる必要がある。

上記を受けて、題材を「写真～〇〇（中学校区名）発見フォトアート」と設定した。

写真による表現はシャッターを押すだけでだれでも簡単に表現することができる。しかし、ただシャッターを押すだけではよい表現にはなりにくい。そこで「〇〇発見」というキーワードを基に、日常のものや光景を、新たな視点で見つめ直し、撮影するという表現活動を行う。

その後、互いが撮影した写真を基にした鑑賞活動を行う。作者の〇〇（中学校区）への思いや愛着などの個性的な視点を大切にしながら、自分たちが見慣れたものや光景を作者（友達）はどんな視点で撮影しているかに着眼しながら鑑賞し、互いに感じたことや様々な考えや思いを交流することを重視させたい。

(2) 撮影の視点に焦点化した交流活動の位置付け

「中学校学習指導要領解説 美術編」（平成 20 年 9 月 文部科学省）の第 1 章「総説」の中に「美術科改訂の趣旨」の改善の具体的事項が四点挙げられているがその一つに以下の記述がある。

(ウ) 鑑賞においては、よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取ったことや考えたことなどを自分の価値意識をもって批評し合うなどして、自分なりの意味や価値をつくりだしていくことができるように指導の充実を図る。また、鑑賞に充てる授業時数を十分確保するようにする。

本題材では、「〇〇（中学校区名）発見」というキーワードを踏まえ、新たな視点で撮影した互

いの写真を基にして、撮影の視点に焦点化した交流活動を行わせる。作者の表現の意図や着眼点、表現の独自性を感じ取らせ、互いの作品のよさや写真表現のよさを味わわせていきたいと考えている。

交流の場面では、全員の作品を黒板に掲示することにより、学級生徒全員で自由に意見交換をさせたい。本時は最初に完成した作品を全員から黒板に掲示させ、鑑賞（意見交換）カード（別紙1）を記入させる。この鑑賞カードを使って全員で自由に意見交流することで、様々な視点で自分の作品への意見をもらえたり、自分の作品のよい点や工夫点にも改めて気付いたりすることができると考えている。そして、本時で交流した気付きをフィルム写真での撮影作品（本制作）に生かしていきたい。

(3) 生徒の実態

生徒は全体的に明るく素直である。美術の授業にも大変意欲的に取り組んでいる。学力面では、一定水準以上の成果を上げている。しかし、美術の授業においては、積極的に表現しようとする生徒、苦手な生徒の二極化が見られる。また、一見、落ち着いて作品制作に取り組んではいるが、グループ学習や班別学習において、人間関係を構築し活動することを苦手とする生徒が目立つ。中には、基礎的な表現力に欠けるため、粘り強く課題を追求することができない生徒もいる。

美術の授業において、本校の生徒に不足を感じているのは、具体的に次の力である。思考力では、対象を見つめ感じとったことや想像したことを基に、主題を生み出す力。また、対象から感じる造形的なよさや、自分が感じ取ったよさの根拠を考える力である。判断力でいえば、対象がもつ、よさや美しさや造形的要素を感じる力。表現力でいえば、対象から感じ取ったことや考えたことを自分の言葉で表現する力である。特に、すすんで自分の意見を発表する力である。

これら不足している力はいずれも美術の鑑賞活動において、高めることができると考えている。言語活動に焦点をあて、本単元での学習を通して、感動したことを素直に自分のことばで表現できるようにしたい。また、対人関係やコミュニケーションを通して、「よく考える力」「表現する力」を高めていきたい。さらに、仲間とのコミュニケーション活動を通して、主体的に鑑賞を楽しむ生徒をめざしたいと考え、本題材を設定した。

6 題材の評価規準

(1) 美術への関心・意欲・態度

身の回りのものや光景を新たな視点で見つめ直し、カメラで撮影するという表現活動を通して、写真作品や表現手段としての特性などに関心を持ち、それらのよさや可能性を再認識しようとする。

(2) 発想や構想の能力

身の回りのものや光景を新たな視点で見つめ直して被写体を選んだり、作品にした時の造形的効果を予想しながら被写体との距離や撮影の角度、構図、時間、状況などを工夫している。

(3) 創造的な技能

身の回りのものや光景を新たな視点で見つめ直して被写体を選んだり、被写体との距離や撮影の角度、構図、時間、状況などを工夫しながら、撮影という表現活動を行っている。

(4) 鑑賞の能力

写真表現に関心を持ち、作者の意図や着眼点、表現方法の独自性などを感じ、そのよさを味わい、新しい撮影方法などの可能性に気付いている。

自他の作品を対照的にとらえ、自分たちが見慣れたものや光景を、作者はどんな着眼点や表現方法で表しているか、どんな思いで表しているかを感じ取っている。

7 指導と評価の計画（全14時間）

時	ねらい	学習活動	評価規準	評価基準
1 2	学習の流れを理解することを通して、写真による表現題材に取り組む意欲をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを聞き学習の流れをつかむ。 ・カメラオブスクラを制作してみる。 	写真表現に興味をもち、意欲的に取り組む。(美術への関心・意欲・態度)	B：カメラオブスクラのファインダーを通して見ることで日常の風景が写真となることを知ることができる。
3	モデル作品例を比較することを通して、写真表現の特性を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真についての制作のねらいや目的、制作にかかわる条件を知り、作品例などにふれ、日常的に接しているものや光景などを表現対象として意識する。 	写真の表現方法やその特性などを知り、身の回りのものや光景を表現対象として意識することができる。(発想や構想の能力)	B：日常の光景が「見方・接し方」によって違って見えることに気付くことができる。
4 5 6	撮影機材についての機能と特性を理解することを通して、処理方法に関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラについての基本的な機能やその特性を知り、それらが表現に影響を及ぼす特性などを知る。 	写真作品の独特な表現方法や作品化にあたってのさまざまな処理技術に関心をもち、自分の作品に生かそうとする。 (美術への関心・意欲・態度)	B：工夫次第で新たな表現ができることに関心をもち、試そうとする。
7 8	作品のテーマを大まかに考えることを通して、撮影を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のテーマを考えながら、撮影対象を探しながら撮影を行う。 	作品のテーマを大まかに考え、それに基づき撮影を行うことができる。(創造的な技能)	B：日常生活で見過ごしているものを挙げるなどしてテーマや撮影対象を考え、撮影できる。
9 (本時)	他者との交流を通して、自他の作品を対照的にとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・でき上がった作品を友達同士で鑑賞し、お互いの作品についてその着眼点や表現方法、そのよさなどについて、感想を述べ合う。 	自他の作品を対照的にとらえ、着眼点や表現方法の違いを知り、他者の目を通して自作品を客観視することができる。 (鑑賞の能力)	B：友達や自分の写真に接し、それらに関心をもち、感想などを述べようとする。
10 11	追究活動を通して、よりよい作品制作を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのやり取りを参考にしながら、自作品の中から写真として作品化するための写真を選択し、レ 	単体の写真が相互にもたらず相乗効果を考えながら写真を選択し、全体の構成を考えることができ	B：全体の構成を考え、明確な意図をもって写真を選択することができる。

		イアウトの仕方を考える。	る。(発想や構想の能力)	
12	作品制作を通して、全体の調和や効果を考える。	・展示することを前提として台紙にレイアウトし、工夫したキャプションをつける。	全体の調和や効果を考へて、作品を仕上げるができる。 (創造的な技能)	B：他者に見られることを考へて仕上げるができる。
14	作品展示会を通して自他の作品のよさや美しさを感じ取り味わう。	・友達と共に作品を展示し、お互いの作品についてそのよさや表現の特徴などについて感想を述べる。	自他の作品に触れ、そのよさなどを感じ取り、観点(とる角度・被写体との距離・光りのあたり方・対象の見方等)に基づいて感想を述べ合ふことができる。 (鑑賞の能力)	B：友達の作品の独特な表現方法などに気付き、そのよさを味わっている。

8 本時(9/14時)

(1) ねらい

- 「〇〇(中学校区名)発見」というキーワードを踏まえ、撮影した写真の中から最もふさわしい作品を選び、そのテーマが分かるような題名を付けることができる。
- 他者との交流を通して、自他の作品を対照的にとらえ、お互いの作品のよさや表現の特徴を味わうことができる。

(2) 評価規準

- 「〇〇発見」というキーワードを基に撮影した自分の写真の中から、最も魅力的な写真を選び、適切な題名を付け、展示することができる。(発想や構想の能力、創造的な技能)
- 「〇〇発見」というキーワードを基に友達の作品を眺め、作者の意図や思いを感じ取ったり、そのよさなどを感じ取り、感想を交流し合っている。(鑑賞の能力)

(3) 本時の構想

① 自分の作品を提示した視点で選ばせる

普段見慣れている風景や学校生活の中から、「Ⅰ 生活の営みがよく表れている」、例えば、すり減った～、使い古した、跡が残った～、散らかった～などや「Ⅱ 歴史や時間の流れがよく表れている写真」、例えば先輩の残した～、成長した～、思いのしみこんだ～、部活動で使った～などの視点で選ばせたい。

② 適切な題名を付けさせる

同じ写真でも題名の付け方で、随分、作品の雰囲気が変わってくる。インパクトのある題名、自分の作品への思いがよく表れるような題名、自分らしさが表せる題名など工夫させたい。あるテーマをもって作品をつくり、さらに自分の発想と作品を結び付けて題名を考へることで、より表現したいことを明確にさせていくことにつながると考へる。写真という作品と題名を合わせて

「完成した写真作品」とさせていきたい。

③ 友達の作品から1枚を選び、感想カードに思いや感じたことを書かせる

友達の作品の中から自分が気に入った作品を1枚選び、「何を撮影しているか」、また「作者が表現しようとしたことは何か」、「その作品からどんな感想や印象をもったか」、「自分の作品とどんな違いがあるか」、「自分の作品とみんなの作品を見て何を感じたか」等を感想カードに書かせる。これらの活動によって、自分とは異なる視点があることに気付かせたり、友達のもっている様々な価値観や視点にも気付かせていきたいと考えている。

④ 学級全体で交流活動を行う

授業の導入で、一人一人の完成した試作品を黒板に一斉に掲示させる。全員の作品が黒板に一斉に掲示されることによって、迫力も感じられ、自他の作品の違いが一目瞭然に伝わってくる。このインパクトを大事にして「感想（鑑賞）カード」を書く活動へとつなげていく。

交流活動は、作品に対する感想や考え等を書いた「感想（鑑賞）カード」を基に、観点（①撮る角度、②対象との距離、③光りのあたり方、④対象の見方）をふまえて、フリーで意見交換をさせる。

観点に対して、様々な見方や感じ方からもらえる他者からの意見は、今後の本に大きく生かせるものとする。

(3) 展開

時間	学習の流れ	学習活動	・指導上の留意点 □評価
導入 5分	前時の振り返りと本時の学習内容を確認する。	・写真作品に「〇〇発見」というキーワードに最もふさわしい作品を選び、適切な題名を付け作品を完成すること。その作品を鑑賞し、学級全員で交流活動をするをつかむ。	・写真作品と鑑賞カード、授業記録用紙を配布する。
展開 (1) 10分	各自の写真作品を完成する。	・最も意図やテーマにあった写真を選び、適切な題名を付ける。	□最も意図やテーマにあった写真を選び、適切な題名を付けることができる。 ・題名を付けたものから順次、黒板に展示させていく。
展開 (2) 10分	展示作品を鑑賞し、感想カードに記入する。	・黒板に展示された友達の作品を見て、「〇〇発見」というキーワードから作品を眺めた時に、その着眼点や表現方法等を観点をふまえて鑑み、最も心がひかれた作品を選び、感想カードに感想をまとめる。	・写真の中から気に入った写真作品を1枚選出し、自分の作品と対照的な部分について考えさせる。「〇〇発見」というテーマを必ず意識させる。 ・対照的な部分を考える観点は、「①撮る角度、②対象との距離、③光りのあたり方、④対象の見方」等を示す。

			<input type="checkbox"/> 友達の写真から「○○発見」というキーワードを基にして1枚を選び、キーワードを踏まえて写真についての印象や表現方法、作者の意図、自分の作品との違いについてまとめることができる。
展開 (3) 15分	<p>学級全員で友達の写真についての意見の交流活動を行い、「○○発見」をキーワードにして、表現方法の独自性や表現意図を感じ、そのよさを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感想カードに書いたことを基に、学級全員で意見を交流する活動を行う。 ・票数の集まった作品について、その作品のよさを、キーワードを踏まえながら意見を交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点（①撮る角度，②対象との距離，③光りのあたり方，④対象の見方）等を意識させて、意見交流をさせる。
終末 10分	<p>本時のこれまでの学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を振り返り、写真作品のポイントについてまとめ、授業記録カードに記述する。 	<input type="checkbox"/> 同じテーマであっても表現が様々に異なる「写真」という表現のよさやその特徴に気付くことができる。

(別紙1)

友達の作品を鑑賞しよう

「〇〇(地域)発見」というキーワードや今まで制作してきたポイントをふまえ、一番、自分の心がひかれた友達の作品を1枚選ぼう。

そのよさや作者の表現しようとしたことや作者の思いを作品から感じ取ってみましょう。

2年	組	番	名前
----	---	---	----

1 いいなと思った作品名と作者。

作品名「」作者()

2 何を撮影しているか、また作者が表現しようとしたことは何だろう。

3 その作品からどんな感想や印象をもちましたか。

4 自分の作品とどんな違いがあるかな。(①撮る角度、②対象との距離、③光りのあたり方、④対象の見方等)

5 自分の作品とみんなの作品を見て何を感じたか、感想を書こう。